流れついた光る木

東海村

昔々、ひとりのみすぼらしい姿をした旅のお坊さんが村松(現在の那珂郡東海村)にやってきました。お坊さんは、潮風を胸いっぱい吸うと

「なんとさわやかな潮風だ。白い砂浜と緑の松原に、身も心も洗われる思いだ。この村にしばらく泊めてもらって修行をしよう。」

と、近くの漁師の家に行き、どこか泊まるところがないか尋ねました。すると、漁師もその妻も

「こんな貧しいところでよかったら、どうぞ、いつまでもお泊まりください。」

と、快く家に迎えてくれました。お坊さんは

「ここは自然も素晴らしいが、人の心も美しい。」

と言って、大変喜びました。

数日後、漁師たちが海で光るものをみつけて、村中大さわぎになりました。渚に打ち上げられたのは、なんとも不思議な光を放つ木でした。村人たちは、お坊さんを海岸へ呼び見てもらうことにしました。お坊さんは光る木をじっと見つめ、砂浜にひざまずく両手を合わせて拝み始めました。

「これはただの木ではありません。南の海から流れ着いた尊い木です。私に『この木で仏像を刻め』という仏さまの御心だと思います。どうか、この木で仏像を刻むことをお許しください。」

というのです。村人たちは

「お坊さんが言うのだから、間違いないだろう。」

と木をお坊さんに預けました。

お坊さんは、何日もかけて仏像を刻みました。その真剣な姿に村人たちも心を打たれ、いつしか流れ着いた木と同じように、お坊さんも光り輝いて見えるようになりました。

やがて、一体の仏像が出来上がり、お坊さんは村人たちに

「これは、拝めば人々に知恵と幸せを授けてくださるありがたい虚空蔵菩薩という仏さまです。特に子供が13歳になったときにお参りすると、厄を払って、幸運をもたらしてくださるでしょう。」

と伝えると、泊めてもらった漁師夫妻に深くお礼の言葉を述べ、どこかへと旅立っていきました。実は、このお坊さんは弘法大師だったのです。

村人たちは話合い、光る木が流れ着いた海岸に祀ることにしました。流れ着いた尊い木で弘法大師がつくったと伝わる村松山虚空蔵堂の御本尊(虚空蔵菩薩)は、この御仏で、現在も三重県伊勢の朝熊山金剛証寺、福島県柳津の霊厳山円蔵寺とともに日本三体虚空蔵尊の一つとして、十三詣りや厄除け・方位除け・出世開運を祈願する参拝客でにぎわい、信仰されています。

〈参考文献〉「茨城ふるさとのむかし話」(藤田稔編)

お出かけの際には、周囲の状況等に十分ご配慮いただきますようお願いいたします。

「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) https://www.ibaraki-isuzu.co.jp